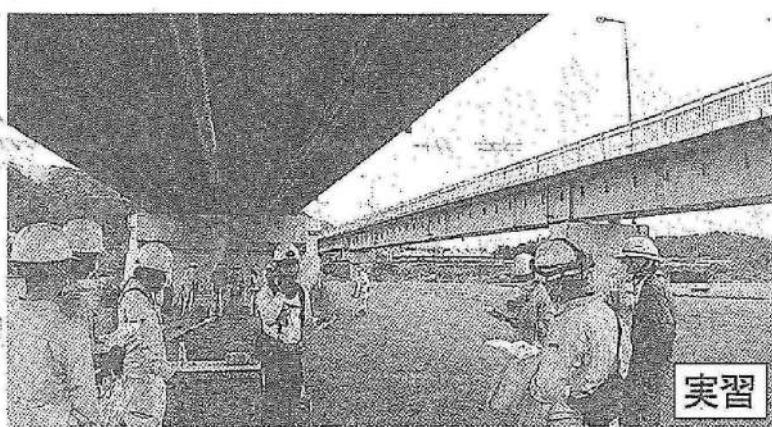
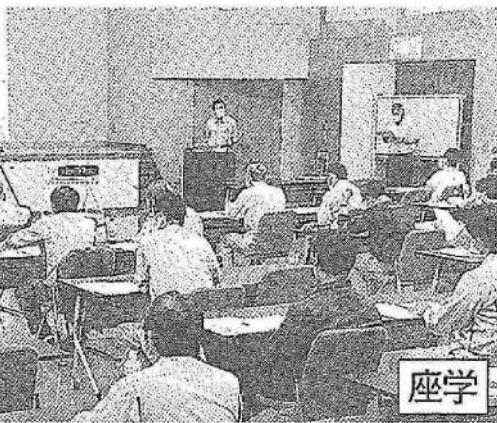


県コンクリート診断士会

合理化内容会員へ周知図る

橋梁定期点検

マニュアル改訂研修開く



福井県コンクリート診断士会（山川博樹会長）は18日、県の橋梁定期点検マニュアル改訂研修会を開催し、正会員や学術

会員、賛助会員ら約50人が参加し、合理化ポイントを学んだ。士会の第1回のスキルアップ研修会に位置づけられた。

続いて、会員らは、九頭竜川渡河橋の五松橋（コンクリート橋）に向かい、点検実習した。士会員が講師役を務める橋梁の点検実習に合わせ、非破壊検査機器を用いた実習にも取り組んだ。非破壊試験は、コンクリート構造物中の配筋冒頭挨拶。19年の改訂内容を、会員に水平展開する意義を強調した。

座学は、坂井市丸岡町熊堂の県産業情報センターで行われ、山川会長が冒頭挨拶。19年の改訂内容を、会員に水平展開する意義を強調した。講師は、公益財団法人建設技術公社の白井裕喜氏が務めた。福井県の改訂内容が、國の方針に沿いつつ、特に3大損傷（塩害・アルカリ骨材反応ASR・凍害）に注視した特徴点を紹介。山川会長も講師として、5年に1回の定期点検2巡回の手引きを説明した。

実習は、坂井市丸岡町熊堂の県産業情報センターで行われ、山川会長が冒頭挨拶。19年の改訂内容を、会員に水平展開する意義を強調した。講師は、公益財団法人建設技術公社の白井裕喜氏が務めた。福井県の改訂内容が、國の方針に沿いつつ、特に3大損傷（塩害・アルカリ骨材反応ASR・凍害）に注視した特徴点を紹介。山川会長も講師として、5年に1回の定期点検2巡回の手引きを説明した。